

関口存男 略年譜

西暦	元号	年齢	●=主な刊行物	世の中のできごと
1894年	明治27年	0	11月21日 兵庫県姫路市にて誕生	日清戦争
1895年	明治28年	1		
1896年	明治29年	2		アテネで第一回オリンピック
1904年	明治37年	10		日露戦争
1908年	明治41年	14	9月 大阪陸軍地方幼年学校入学 ドイツ語を学び始める。レクラム文庫のドストエフスキー『罪と罰』(独訳版)に取り組む。	
1911年	明治44年	17	7月 大阪陸軍地方幼年学校卒業 9月 陸軍中央幼年学校(東京)本科入学	
1912年	明治45年/大正元年	18		
1913年	大正2年	19	5月 陸軍中央幼年学校本科卒業後 引き続き歩兵第57聯隊に勤務 12月 陸軍士官学校(東京)入学	
1914年	大正3年	20		1914-18 第一次大戦
1915年	大正4年	21	5月 陸軍士官学校第27期卒業 12月 陸軍歩兵少尉 歩兵第57聯隊付	
1916年	大正5年	22	3月 大村為子と結婚 10月 上智大学入学	
1917年	大正6年	23	青山杉作、村田實、木村修吉郎らと劇団「踏路社」を創立 2月 長與善郎原作「画家とその弟子」踏路社旗揚げ公演 4月 アテネフランセ入学 4月 長女誕生 5月 踏路社「悪夢」上演 プロンプターを務める	
1918年	大正7年	24	2月 アテネフランセ初等科 仏語教授となる 3月 踏路社「幽霊」上演 監督を務める 11月 アテネフランセ初等科 ラテン語教授となる 11月 陸軍予備役となる	第一次大戦終結
1919年	大正8年	25	2月 長男誕生 3月 上智大学哲学科卒業 8月 外務省反訳課勤務	
1920年	大正9年	26		
1921年	大正10年	27	3月 次女誕生 陸軍予備役となる ●『ニーベルンゲン』ヘツベル 著、関口存男 訳(精華書院)	
1922年	大正11年	28	4月 法政大学予科講師となる	
1923年	大正12年	29	1月 三女誕生	9月1日 関東大震災
1924年	大正13年	30	11月 次男誕生	
1925年	大正14年	31		
1926年	大正15年/昭和元年	32	四女誕生	
1927年	昭和2年	33	●「椿姫、タイス」(世界名作大観; 各国篇 第14巻) アレクサンドル・デュマ・フィス 著/アナトール・フランス 著、 森田草平、関口存男 共訳(国民文庫刊行会)	
1928年	昭和3年	34	●『準備本位独逸語文法』(尚文堂) ●『人間嫌ひ』モリエール 著、関口存男 訳(岩波文庫)	
1929年	昭和4年	35		
1930年	昭和5年	36	●『準備本位獨逸語讀本』奥脇要一 共著(尚文堂)	
1931年	昭和6年	37	●関口存男主宰 雑誌「初級ドイツ語」刊行開始(尚文堂) ●『独逸語大講座』全6巻(1931-1935, 外国語研究社)	満州事変
1932年	昭和7年	38	母 品 死去 ●『標準初等ドイツ語講座』上巻(日光書院) ●『新独逸語文法教程』(三省堂) ●『例題本位和文独訳の実際』(日光書院)	7月 ナチス第一党に
1933年	昭和8年	39	法政大学文学部教授となる ●『標準初等ドイツ語講座』上,中,下(橘書店) ●『意味形態を中心とする獨逸語前置詞の研究』(橘書店)	1月 ヒトラー 首相に就任 法政騒動

西暦	元号	年齢	●=主な刊行物	世の中のできごと
1934年	昭和9年	40		
1935年	昭和10年	41	●『独作文教程』第1分冊(尚文堂) ●『新独逸語文法教程解説』(三省堂)	
1936年	昭和11年	42		二・二六事件
1937年	昭和12年	43		
1938年	昭和13年	44	関口存男主宰 雑誌「ドイツ語」刊行開始(日光書院) 日本放送協会ラジオ・ドイツ語講座を担当(-1941) 7-9月 日本放送協会ラジオ夏期ドイツ語講座	
1939年	昭和14年	45	臨時招集にて入隊 1年間 火・木・土 朝6:00-7:00 日本放送協会ドイツ語講座 ●『独逸語学講話』(日光書院) ●『獨作文教程』(日光書院)	1939-45 第二次大戦
1940年	昭和15年	46	夏季ドイツ語講座主催(神田) 1年間 月・水 夜9:00-9:30 日本放送協会ドイツ語講座 ●『独逸語学講話』(日光書院) ●『高等独逸文典』(三省堂) ●『初等独文科学読本』(日光書院) ●『意味形態を中心とする獨逸語前置詞の研究』(日光書院)	日独伊三国同盟
1941年	昭和16年	47		12月 太平洋戦争
1942年	昭和17年	48	10月 慶應義塾外国語学校講師となる ●『標準初等ドイツ語講座』上・中・下(日光書院) ●『中級科学読本』(三修社)	
1943年	昭和18年	49	父 存啓 死去 9月 法政大学文学部教授辞職 ●『独逸文法接続法の詳細』(日光書院) ●『入門科学者のドイツ語』(三修社)	
1944年	昭和19年	50	1月 法政大学予科教授辞職 外務省外国語学校教官となる	
1945年	昭和20年	51	3月 外務省外国語学校教官辞任 3月 長野県西筑摩郡吾妻村妻籠に疎開 4月 下落合自宅 空襲にて全焼	
1946年	昭和21年	52	3月 慶應義塾外国語学校 公職追放により辞職	
1947年	昭和22年	53	●『標準初等ドイツ語講座』下(日光書院) ●『新ドイツ語大講座』上(東西出版社) ●『ハイネ抒情挿曲』関口存男訳(吾妻書房) ●『素人演劇の実際』(愛育社)	5月 日本国憲法施行
1948年	昭和23年	54	11月 疎開先の妻籠より下落合自宅に帰る ●『新ドイツ語大講座』下(東西出版社) ●『阿呆物語』グリーンメルスハオゼン 著、関口存男 訳(東西出版社)	1月 帝銀事件
1949年	昭和24年	55		7月 下山事件
1950年	昭和25年	56	10月 高田外国語学校講師となる	
1951年	昭和26年	57	10月 慶應義塾外国語学校講師となる ●『やさしいドイツ語』(三修社)	サンフランシスコ平和条約締結
1952年	昭和27年	58	1月 関口存男主宰「基礎ドイツ語」刊行開始(三修社) 4月 早稲田大学文学部、同大学院文学研究科講師となる 4月 慶應義塾大学文学部講師となる	4月 公職追放廃止
1953年	昭和28年	59		2月 NHK テレビ放送開始
1954年	昭和29年	60	還暦	1954-1973 高度経済成長
1955年	昭和30年	61	4月～死去まで NHK独逸語初等講座担当	
1956年	昭和31年	62	3月 慶應義塾大学文学部講師辞任	
1957年	昭和32年	63	妻 為子 入院	
1958年	昭和33年	(64)	1月 妻 為子 死去 7月25日 脳溢血のため急逝 享年63	12月 東京タワー完成
1959年	昭和34年	-	●『関口存男 生涯と業績』(三修社)	
1960年	昭和35年	-	●『冠詞』第1巻 定冠詞篇(三修社)	
1961年	昭和36年	-	●『冠詞』第2巻 不定冠詞篇(三修社)	ベルリンの壁構築
1962年	昭和37年	-	●『冠詞』第3巻 無冠詞篇(三修社)	12月 首都高速道路開業